

日蓮聖人ゆかりの地を

訪ねて

先月の、お彼岸の1週間（春分の日＝中日）には、皆さんシツカリ先祖供養・菩薩行（心の修行）はできたでしょうか？分かっていても、なかなか実行できないのが私達の常です。何事に対しても『当たり前』ではなく、『有り難いこと』なのだと思いが付ける自分でありたいものですね。そこに幸せを感じる為の入り口があるはずですよ。

さあ、今月8日は『釈尊御降誕の日』です。つまり4月8日は、仏教を開かれたお釈迦様のお誕生日ということですよ。この日を別名「降誕会（こうたんえ）、灌仏会（かんぶつえ）、仏生会（ぶつしょうえ）、竜華会（りゅうげえ）、浴仏会（よくぶつえ）」などとも呼ばれています。時期が丁度、春爛漫の頃なので、一般には「花祭り」の名で親しまれています。《お釈迦様は咲き誇る無憂樹の花の下で産声を上げ、天からは九頭竜が香ばしい甘露の雨を注ぎ、産湯を施されたという言い伝えがあ

ります》それに因み、御堂を花で飾り、甘茶を甘露の雨に見立て、お祝いするようにになりました（その昔は五香水とか五色水という香水を使っていたそうですよ）。

真成寺では、本堂正面の中央に、甘茶をたたえた水盤を置き、その中にお釈迦様の誕生した時のお姿をかたどった銅の仏像（誕生仏）を安置させて頂いております。当日、檀信徒の皆さんは、小さなひしゃくで甘茶を汲み、誕生仏の頭から3回注いでお参りします。お参りが終わって家路についていたら、持ち帰った甘茶を家族の皆で有り難くいただいている事と思います。昔は、甘茶を飲むだけでなく、持ち帰って墨をすり、虫除けのおまじないを書いて戸に張ったりした事もあった様です。

まあこの様に、お釈迦様の御誕生を祝すが如く、天地自然が不思議な現象を現したのでした。これはお釈迦様に限った事ではなくて、歴史的に偉大な方がこの世に生を受けた時というのは、古今東西を問わず、不思議な自然現象が起こる様なのです。

それでは、日蓮大聖人が誕生なさった時には、何か不思議な自然現象が起こったのでしょうか？実は起こりま

した。お釈迦様に負けないくらい不思議な自然現象が、起こったのでした。日蓮大聖人を、改めて振り返ってみましょう。

日蓮大聖人は、貞応元年（1222）2月16日、安房国東条郷（小湊片海の地）にお生まれになられたのですが、当時の小湊は、日照りが続き、川の水もカラカラで地割れしている有り様だったと言います。そんな中、2月16日の日蓮大聖人御誕生の当日、産湯に使うきれいな水がどこにも見当たりません。村人達は「これは困ったなあ……いつもお世話になっているのに、こんな時ぐらい何か協力できればいいのになあ……」と困り果てていました。村人達がこれだけ熱心に協力してくれるには理由がありました。日蓮大聖人の父親である貫名重忠は信心深く（信仰心も篤く）、普段から、困った人を見つけたら、見て見ぬふりが出来ない実直な方でしたから、村人達からの信望を一手に集めていました。そんな重忠さんのため、赤ん坊の誕生を楽しみにしていた村人達は「なんとかしてあげてください……」と、仏様に一心にお願いしたのでした。すると、不思議なことに突然、庭先から綺麗な泉が湧き出してきたのです。その綺麗な湧き水を沸かし

て産湯にし、無事出産を終えることができたのだそうです。日蓮聖人がお産れになった時、大きく三つの不思議な現象が起こったとされます。

それを【三奇瑞】さんきずいと云って、

（誕生水）…産声を上げた時、家の庭先から清らかな清水が湧き出し、産湯に使った湧き水。現在は誕生寺境内の一角に清水を祀った誕生水の石柱を見ることが出来ます。

（蓮華ケ洩）…近くの砂浜では、時ならぬ蓮華の花が海辺一帯に咲き誇りました。以来、この砂浜は「蓮華ケ洩」と呼ばれ、蓮華の花のように美しく輝く砂を「5色砂」と呼ばれています。

（鯛の出現）…日蓮聖人の誕生を祝福するかのよう、海面近くに大小のマダイが群れをなして現れました。この一帯に生息する鯛は、日蓮聖人の化身、分身として尊信され禁漁が守られています。「鯛ノ浦・妙の浦」として、現在に言い伝えられています。

面白いですよね…本当にこんな事が起こったのですから…。皆さんの誕生時はどうでしたか？何か不思議

なことが起きましたか(笑)?

冗談はさておき、そんな日蓮大聖人の霊跡を「参拝してみたい!」という思いで、

6月9日(11日)(泊3日)に《大聖人様のゆかりの地をたずねる旅〜其の壱》と銘打って、檀信徒参拝旅行を企画致しました。

【其の壱】とあるのは、【其の武】があります。【其の惨】もあります。

全ては、今回の【其の壱】の反響を踏まえて計画していると考えています。取り敢えず、今回は【其の壱】です。興味と、時間と、お金に余裕があれば、どうぞお気軽に申し込んで頂ければ幸いです。

また申込用紙は、真成寺本堂内に御座います。

また住職、並びに私が持ち歩いておりますので、ひと声かけていただければ、申し込み表をお渡しいたします。遠くて、なかなか気軽に行けるような場所ではないので、この機会に是非、日蓮大聖人の原点に参詣しましょう。来月号では、参拝する寺院の由来等をご紹介しますと思います

合掌

副住職 谷川寛敬